

グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

たくさん子どもたちに
本物の芸術をお届けする、
アウトリーチ活動を実施しています。



「グランシップ 誰もがWonderfulアート」 関連アウトリーチ 「貼り絵ワークショップ」

2021.6.3(木)
静岡県立沼津特別支援学校 伊豆田方分校
高等部1年生 生徒11名

公益財団法人静岡文化財団・グランシップでは、県民の皆様にも多彩な文化芸術を体験する機会を多く持っていたため、国内外の芸術家や静岡ゆかりのアーティストによるコンサートやワークショップなど、多様な形態のアウトリーチ活動を各地の文化施設や学校で積極的に実施しています。今回は、裾野市を拠点に活動する美術作家・福井揚さんが、県立沼津特別支援学校伊豆田方分校の生徒の皆さんと貼り絵ワークショップを行いました。

福井さんの「まずは、素材を触ってみよう」の声掛けを受けて、貼り絵のパーツとなる様々な色・形・質感の布やフェルトに触れてみることからスタート。最初は緊張していた生徒たちの表情が徐々に和らいでいきます。次に、創作イメージを膨らませるため、福井さんが生まれ育った止揚学園の作品について、その魅力やどのようにつくられたのかを紹介。いよいよ、生徒たちは作品づくりに取り掛かります。好きな素材を自由に使い、1m四方の段ボールの上に自由に貼り付けます。福井さんからは「自分のやりたいうようにストーリーをつくってみよう」「疲れたな、という時に一度手を止めて距離を取って眺めてみる」などと一人一人に寄り添いアドバイスが送

られました。

作品が完成したら、それぞれがどんなイメージで作品をつくったかを共有しました。先生からは、各々が自分の思いを素直に表現できていて、「上手に作る」「いい作品を作ろう」という気負いがなく、自然であったこと、生徒の自由な発想を活かしながらプラスの方向にもっていく働きかけがとても良かったとの感想も。生徒たちは、講師と関わりながら作品を作ることでアーティストとの交流を図り、学校の美術の時間とは異なる表現の楽しさを、アートの自由な楽しみ方の一つとして体験できたのではないのでしょうか。

グランシップは、引き続き県内各地で、地域や学校と連携しながら、子どもたちが様々な文化芸術に触れる体験をお届けしていきます。

最初はぜんぜん作れると思わなかったけれど、できて良かった。もう一度やりたい。(生徒)



一人で自由に貼り絵をするのが初めてだったので楽しかった。(生徒)

生徒一人一人が創作意欲を持てるような言葉かけ、作品作りのストーリー(イメージ)を持てるような支援のあり方がとても参考になった。(先生)



生徒の表現を何でも受け入れてくれたので、生徒が自分でも驚くほどに集中して取り組めたのだと思う。(先生)



このワークショップで貼り絵が好きになった。(生徒)